

13 イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は人の子をだれと言っているか」。

14 彼らは言った、「ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言いい、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります」。

15 そこでイエスは彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」。

16 シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。

17 すると、イエスは彼にむかつて言われた、「バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である」。

18 そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない」。

19 わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」。

20 そのとき、イエスは、自分がキリストであることをだれにも言ってはいいけないと、弟子たちを戒められた。

21 この時から、イエス・キリストは、自分が必ずエルサレムに行き、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえるべきことを、弟子たちに示しはじめられた

22 すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめ、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあるはずはございません」と言った。

23 イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

24 それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」。

25 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため自分の命を失う者は、それを見いだすであろう」。

26 たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得にならうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。

27 人の子は父の栄光のうちに、御使たちを従えて来るが、その時には、実際のおこないに応じて、それぞれに報いるであろう」。

28 よく聞いておくがよい、人の子が御国の力をもつて来るのを見るまでは、死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。

1 六日のち、イエスはペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。

2 ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、その顔は日のように輝き、その衣は光のように白くなった。

3 すると、見よ、モーセとエリヤが彼らに現れて、イエスと語り合っていた。

4 ペテロはイエスにむかつて言った、「主よ、わたしたちがここに居るのは、すばらしいことです。もし、お返しつかえなければ、わたしはここに小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために」。

5 彼がまだ話し終えないうちに、たちまち、輝く雲が彼らをおおい、そして雲の中から声がした、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け」。

6 弟子たちはこれを聞いて非常に恐れ、顔を地に伏せた。

7 イエスは近づいてきて、手を彼らにおいて言われた、「起きなさい、恐れることはない」。

8 彼らが目をあげると、イエスのほかには、だれも見えなかった。

9 一同が山を下つて来るとき、イエスは「人の子が死人の中からよみがえるまでは、いま見たことをだれにも話してはならない」と、彼らに命じられた。

10 弟子たちはイエスにお尋ねして言った、「いつたい、律法学者たちは、なぜ、エリヤが先に来るはずだと言っているのですか」。

11 答えて言われた、「確かに、エリヤがきて、万事を元どおりに改めるであろう」。

12 しかし、あなたがたに言うておく。エリヤはすでにきたのだ。しかし人々は彼を認めず、自分かつてに彼をあしらった。人の子もまた、そのように彼らから苦しみを受けることになる」。

13 そのとき、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと悟った。

14 さて彼らが群衆のところに帰ると、ひとりの人がイエスに近寄ってきて、ひざまずいて、言った、

15 「主よ、わたしの子をあわれんでください。てんかんで苦しんでおります。何度も何度も火の中や水の中に倒れるのです」。

16 それで、その子をお弟子たちのところに連れてきました。が、なおしていただけませんでした」。

17 イエスは答えて言われた、「ああ、なんという不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか。いつまであなたがたに我慢ができませんか。その子をここに、わたしのところに連れてきなさい」。

18 イエスがおしかりになると、悪霊はその子から出て行った。そして子はその時いやされた。

19 それから、弟子たちがひそかにイエスのもとにきて言った、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」。

20 するとイエスは言われた、「あなたがたの信仰が足りないからである。よく言い聞かせておくが、もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、この山にむかつて『ここからあそこに移れ』と言えば、移るであろう。このように、あなたがたにできない事は、何もないであろう」。

21 しかし、このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追いつくことはできません」。

17

22彼らがガリラヤで集まっていた時、イエスは言われた、「人の子は人々の手にわたされ、  
23彼らに殺され、そして三日目によりみがえるであろう。」  
弟子たちは非常に心をいためた。  
24彼らがカペナウムにきたとき、宮の納入金を集める人たちがペテロのところに来て言った、「あなたがたの先生は宮の納入金を納めないのか。」  
25ペテロは「納めておられます」と言った。そして彼が家にはいると、イエスから先に話しかけて言われた、「シモン、あなたははどう思うか。この世の王たちは税や貢をだれから取るのか。自分の子からか、それとも、ほかの人たちからか。」  
26ペテロが「ほかの人たちからです」と答えると、イエスは言われた、「それでは、子は納めなくてもよいわけである。」  
27しかし、彼らをつまずかせないために、海に行つて、つり針をたれなさい。そして最初につれた魚をとつて、その口をあけると、銀貨一枚が見つかるであろう。それをとり出して、わたしとあなたのために納めなさい。」

18

1そのとき、弟子たちがイエスのもとにきて言った、「いったい、天国ではだれがいちばん偉いのですか。」  
2すると、イエスは幼な子と呼ばひ寄せ、彼らのまん中に立たせて言われた、  
3「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。」  
4この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである。  
5また、だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。  
6しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。  
7この世は、罪の誘惑があるから、わざわいである。罪の誘惑は必ず来る。しかし、それをきたらせる人は、わざわいである。  
8もしあなたの片手または片足が、罪を犯させるなら、それを切つて捨てなさい。両手、両足がそろつたまま、永遠の火に投げ込まれるよりは、片手、片足になつて命に入る方がよい。  
9もしあなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい。両眼がそろつたまま、地獄の火に投げ入れられるよりは、片目になつて命に入る方がよい。  
10あなたがたは、これらの小さい者のひとりをも軽んじないように、気をつけなさい。あなたがたに言うが、彼らの御使たちは天にあつて、天にいますわたしの父のみ顔をいつも仰いでいるのである。」  
11人の子は、滅びる者を救うためにきたのである。」  
12あなたがたはどう思うか。ある人に百匹の羊があり、その中の一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、その迷い出ている羊を捜しに出かけないであろうか。  
13もしそれを見つけたなら、よく聞きなさい、迷わないでいる九十九匹のためよりも、むしろその一匹のために喜ぶであろう。  
14そのように、これらの小さい者のひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではない。

18

15もしあなたの兄弟が罪を犯すなら、行つて、彼とふたりだけの所で忠告しなさい。もし聞いてくれたら、あなたの兄弟を得たことになる。  
16もし聞いてくれないなら、ほかにひとりふたりを、一緒に連れて行きなさい。それは、ふたりまたは三人の証人の口によつて、すべてのことがらが確かめられるためである。  
17もし彼らの言うことを聞かないなら、教会に申し出なさい。もし教会の言うことも聞かないなら、その人を異邦人または取税人同様に扱いなさい。  
18よく言つておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天でも皆つなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天でもみな解かれるであろう。  
19また、よく言つておく。もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであろう。  
20ふたりまたは三人が、わたしの名によつて集まっている所には、わたしもその中にいるのである。」  
21そのとき、ペテロがイエスのもとにきて言った、「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか。七たびまでですか。」  
22イエスは彼に言われた、「わたしは七たびまでとは言わない。七たびを七十倍するまでにしなさい。」  
23それだから、天国は王が僕たちと決算をするようなものだ。  
24決算が始まると、一万タラントの負債のある者が、王のところへ連れられてきた。  
25しかし、返せなかつたので、主人は、その人自身とその妻子と持ち物全部とを売つて返すように命じた。  
26そこで、この僕はひれ伏して哀願した、『どうぞお待ちください。全部お返しいたしますから』。  
27僕の主人はあわれに思つて、彼をゆるし、その負債を免じてやった。  
28その僕が出て行くと、百デナリを貸しているひとりの仲間に出会い、彼をつかまえ、首をしめて『借金を返せ』と言つた。  
29そこでこの仲間はひれ伏し、『どうか待つてくれ。返すから』と言つて頼んだ。  
30しかし承知せずに、その人をひつぱつて行つて、借金を返すまで獄に入れた。  
31その人の仲間たちは、この様子を見て、非常に心をいため、行つてそのことをのこらず主人に話した。  
32そこでこの主人は彼を呼びつけて言つた、『悪い僕、わたしに願つたからこそ、あの負債を全部ゆるしてやったのだ。』  
33わたしがあわれんでやつたように、あの仲間をあわれんでやるべきではなかつたか。』  
34そして主人は立腹して、負債全部を返してしまふまで、彼を獄吏に引きわたした。  
35あなたがたためいめいも、もし心から兄弟をゆるさなければ、わたしの天の父もまたあなたがたに対して、そのようになさるであろう。」

1 イエスはこれらのことを語り終えられてから、ガリラヤを去ってヨルダンの向こうのユダヤの地方へ行かれた。  
 2 すると大ぜいの群衆がついてきたので、彼らをそこでおいやしになった。  
 3 さてパリサイ人たちが近づいてきて、イエスを試みようとして言った、「何かの理由で、夫がその妻を出すのは、さしつかえないでしょうか」。  
 4 イエスは答えて言われた、「あなたがたはまだ読んだことがないのか。『創造者は初めから人を男と女とに造られた、  
 5 5そして言われた、それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである』。  
 6 彼らもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない」。  
 7 彼らはイエスに言った、「それでは、なぜモーセは、妻を出す場合には離縁状を渡せ、と定めたのですか」。  
 8 イエスが言われた、「モーセはあなたがたの心が、かたくななので、妻を出すことを許したのだが、初めからそうではなかった」。  
 9 そこでわたしはあなたがたに言う。不品行のゆえでなくて、自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うのである」。  
 10 弟子たちは言った、「もし妻に対する夫の立場がそうだとすれば、結婚しない方がましです」。  
 11 するとイエスは彼らに言われた、「その言葉を受けいれることができるのはすべての人ではなく、ただそれを授けられている人々だけである」。  
 12 というのは、母の胎内から独身者に生れついているものがあり、また他から独身者にされたものもあり、また天国のために、みずから進んで独身者となったものもある。この言葉を受けられる者は、受けいれるがよい」。

13 そのとき、イエスに手をおいて祈っていたたくのために、人々が幼な子らを見もとに連れてきた。ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。  
 14 するとイエスは言われた、「幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である」。  
 15 そして手を彼らの上においてから、そこを去って行かれた。  
 16 すると、ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたらいいでしょうか」。  
 17 イエスは言われた、「なぜよい事についてわたしに尋ねるのか。よいかたはただひとりだけである。もし命に入りたと思うなら、いましめを守りなさい」。  
 18 彼は言った、「どのいましめですか」。イエスは言われた、「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。19 父と母とを敬え」。また『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』。  
 20 この青年はイエスに言った、「それはみな守ってきました。ほかに何が足りないのでしょうか」。  
 21 イエスは彼に言われた、「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。  
 22 この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。

23 それからイエスは弟子たちに言われた、「よく聞きなさい。富んでいる者が天国にはいるのは、むずかしいものである」。  
 24 また、あなたがたに言うが、富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もつとやさしい」。  
 25 弟子たちはこれ聞いて非常に驚いて言った、「では、だれが救われることができるのだろうか」。  
 26 イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはそれはできないが、神にはなんでもできない事はない」。  
 27 そのとき、ペテロがイエスに答えて言った、「ごらんなさい、わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従いました。ついては、何がいただけるでしょうか」。  
 28 イエスは彼らに言われた、「よく聞いておくがよい。世が改まって、人の子がその栄光の座につく時には、わたしに従ってきたあなたがたもまた、十二の位に座してイスラエルの十二の部族をさばくであろう」。  
 29 おおよそ、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、もしくは畑を捨てた者は、その幾倍もを受け、また永遠の生命を受けつくぐであろう」。  
 30 しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」。

1 天国は、ある家の主人が、自分のぶどう園に労働者を雇うために、夜が明けると同時に、出かけて行くようなものである。  
 2 彼は労働者たちと、一日一デナリの約束をして、彼らをつぶどう園に送った。  
 3 それから九時ごろに出て行って、他の人々が市場で何もせずに立っているのを見た。  
 4 そして、その人たちに言った、『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい。相当な賃銀を払うから』。  
 5 そこで、彼らは出かけて行った。主人はまた、十二時ごろと三時ごろとに出て行って、同じようにした。  
 6 五時ごろまた出て行くとき、まだ立っている人々を見たので、彼らに言った、『なぜ、何もしないで、一日中ここに立っていたのか』。  
 7 彼らが『だれもわたしたちを雇ってくれませんか』と答えたので、その人々に言った、『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい』。  
 8 さて、夕方になって、ぶどう園の主人は管理人に言った、『労働者たちを呼びなさい。そして、最後にきた人々からはじめて順々に最初にきた人々にわたるように、賃銀を払ってやりなさい』。  
 9 そこで、五時ごろに雇われた人々がきて、それぞれ一デナリずつもらった。  
 10 ところが、最初の人々がきて、もつと多くもらえるだろうと思っていたのに、彼らも一デナリずつもらっただけであった。  
 11 もらったとき、家の主人にむかって不平をもらして12 言った、『この最後の者たちは一時間しか働かなかつたのに、あなたは一日じゅう、労苦と暑さを辛抱したわたしたちと同じ扱いをなさいました』。  
 13 そこで彼はそのひとりに答えて言った、『友よ、わたしはあなたに対して不正をしてはいない。あなたはわたしと一デナリの約束をしたではないか』。  
 14 自分の賃銀をもらって行きなさい。わたしは、この最後の者にもあなたと同様に払ってやりたいのだ。  
 15 自分の物を自分が見たいようにするのは、当りまえではないか。それともわたしが気前よくしているの、ねたましく思うのか』。  
 16 このように、あとの者は先になり、先の者はあとになるであろう」。

17さて、イエスはエルサレムへ上るとき、十二弟子をひそかに呼びよせ、その途中で彼らに言われた、  
 18「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に渡されるであろう。彼らは彼に死刑を宣告し、  
 19そして彼をあざけり、むち打ち、十字架につけさせるために、異邦人に引きわたすであろう。そして彼は三日目によみがえるであろう」。  
 20そのとき、ゼバダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かを願った。  
 21そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりはおあなたの右に、ひとは左にすわれるように、お言葉をください」。  
 22イエスは答えて言われた、「あなたがたは、自分が何を求めているのか、わかっているか。わたしの飲もうとしている杯を飲むことができるか」。彼らは「できます」と答えた。  
 23イエスは彼らに言われた、「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲むことになる。しかし、わたしの右、左にすわらせることは、わたしのすることではなく、わたしの父によつて備えられている人々だけに許されることである」。  
 24十人の者はこれ聞いて、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した。  
 25そこで、イエスは彼らを呼び寄せて言われた、「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている」。  
 26あなたがたの間ではそうであつてはならない。かえつて、あなたがたの間で偉くになりたいと思う者は、仕える人となり、  
 27あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。  
 28それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。

29それから、彼らがエリコを出て行つたとき、大ぜいの群衆がイエスに従つてきた。  
 30すると、ふたりの盲人が道ばたにすわつていたが、イエスがとおつて行かれると聞いて、叫んで言つた、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。  
 31群衆は彼らをしかつて黙らせようとしたが、彼らはまず叫びつづけて言つた、「主よ、ダビデの子よ、わたしたちをあわれんで下さい」。  
 32イエスは立ちどまり、彼らを呼んで言われた、「わたしに何をしてほしいのか」。  
 33彼らは言つた、「主よ、目をあけていただくことです」。  
 34イエスは深くあわれんで、彼らの目にさわられた。すると彼らは、たちまち見えるようになり、イエスに従つて行つた。

1さて、彼らがエルサレムに近づき、オリブ山沿いのベテパゲに着いたとき、イエスはふたりの弟子をつかわして言われた、  
 2「向こうの村へ行きなさい。するとすぐ、ろばがつかがれていて、子ろばがそばにいるのを見るであろう。それを解いてわたしのところに引いてきなさい。  
 3もしだれかが、あなたがたに何か言つたなら、主がお入り用なのです、と言いなさい。そう言えば、すぐ渡してくれるであろう」。  
 4こうしたのは、預言者によつて言われたことが、成就するためである。  
 5すなわち、「シオンの娘に告げよ、見よ、あなたの王がおいでになる、柔和なおかたで、ろばに乗つて、くびきを負うろばの子に乗つて」。  
 6弟子たちは出て行つて、イエスがお命じになったとおりにし、  
 7ろばと子ろばとを引いてきた。そしてその上に自分たちの上着をかけると、イエスはそれにお乗りになった。  
 8群衆のうち多くの者は自分たちの上着を道に敷き、また、ほかの者たちは木の枝を切つてきて道に敷いた。  
 9そして群衆は、前に行く者も、あとに従う者も、共に叫びつづけた、「ダビデの子に、ホサナ。  
 主の御名によつてきたる者に、祝福あれ。  
 いと高き所に、ホサナ」。  
 10イエスがエルサレムにはいつて行かれたとき、町中がこぞつて騒ぎ立ち、「これは、いったい、どなただろう」と言つた。  
 11そこで群衆は、「この人はガリラヤのナザレから出た預言者イエスである」と言つた。  
 12それから、イエスは宮にはいられた。そして、宮の庭で売り買いしていた人々をみな追い出し、また両替人の台や、はとを売る者の腰掛をくつがえされた。  
 13そして彼らに言われた、「『わたしの家は、祈の家となえらるべきである』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている」。  
 14そのとき宮の庭で、盲人や足なえがみもとにきたので、彼らをおいやしになつた。  
 15しかし、祭司長、律法学者たちは、イエスがなされた不思議なわざを見、また宮の庭で「ダビデの子に、ホサナ」と叫んでいる子供たちを見て立腹し、  
 16イエスに言つた、「あの子たちが何を言つているのか、お聞きですか」。イエスは彼らに言われた、「そうだ、聞いている。あなたがたは『幼な子、乳のみ子たちの口にさんびを備えられた』とあるのを読んだことがないのか」。  
 17それから、イエスは彼らをおとに残し、都を出てベタニヤに行き、そこで夜を過ごされた。  
 18朝はやく都に帰るとき、イエスは空腹をおぼえられた。19そして、道のかたわらに一本のいちじくの木があるのを見て、そこに行かれたが、ただ葉のほかは何も見当らなかつた。そこでその木にむかつて、「今から後いつまでも、おまえには実がならないように」と言われた。すると、いちじくの木はたちまち枯れた。  
 20弟子たちはこれを見て、驚いて言つた、「いちじくがどうして、こうすぐに枯れたのでしょうか」。  
 21イエスは答えて言われた、「よく聞いておくがよい。もしあなたがたが信じて疑われないならば、このいちじくにあつたようなことが、できるばかりでなく、この山にむかつて、動き出して海の中にはいれと言つても、そのとおりになるであろう」。  
 22また、祈るとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう」。